

Singapore Sketch Book

がけっぷち意識を再び学びました

三菱化学シンガポール社
取締役社長 小林 茂 氏

現在：三菱樹脂株式会社
エンジニアリングプラスチック製品部 部長付



日本最大の総合化学メーカーの重要な海外拠点の一翼を担う、三菱化学シンガポール社。2年2カ月の駐在を終え、今年6月に日本へ帰国した小林社長に、シンガポールでの生活についてお話を伺いました。

Q ご家族について教えてください

妻と子供一人です。22歳になる息子がMBA取得を目標に大学院へ入学したため、「旦那より子供」(笑)という不動の方針から単身赴任となりました。日本食が豊富で、昼夜を問わず何事にも便利なシンガポールでは単身でも快適です。国や民族を超えてたくさんの友人ができました。また、交通の便もよく地下鉄とバスでどこにでも行けます。

Q シンガポールで働くビジネスパーソンへの印象はいかがですか？

目的意識が強く、国際動向に敏感ですね。また、とにかく仕事が速いと思います。

空港両替やホテルチェックインのときに、スタッフは笑顔で絶やさず手際がよいことにいつも感心します。ある百貨店でもうれしい驚きがありました。ある日、おつりの出ない買物券で支払いをしたときに、レジの店員が「おつりは出ませんが1シンガポールドル(約65円)の価値が残っています。時間ありますか」と言いながら他の店員と代わり、私を売り場に導き「こちらであれば、残高内で買えます。こちらはもう少し支払えば買えます」と案内したその素早さと親切さにびっくりしました。

Q 日本との違いを、一番感じられた点について教えてください

多様な人種が混在しているので、ビジネス、暮らし、生活にわたるすべての面で、画一的な価値観やものの見方に距離を置いたマナーを感じます。特筆すべきは、常に相対性が軸になるバランス感覚と、それを踏まえた自己主張の仕方です。組織内のヒエラルキーの層がフラットですし、要職を含め多くの女性が活躍しています。また、海外出張時にはアジアの国々へのアクセスの良さを実感します。空港へは飛行機出発の2時間前に事務所を出ます。バンコク、ジャカルタ、クアラルンプールには日帰りで行くことができ、こちらの夜の会食に間に合います。インドも近いんですよ。

Q シンガポールで学ばれたことを教えてください

私たち、三菱ケミカルホールディングスのグループ・モットー「APTSIS」の一つである Sense of Survival(がけっぷち意識)を再び学びました。資源がない都市国家シンガポールの多様な民族・価値観の中で議論し、生活をする中であって、現状維持や内弁慶ではいけないと思いました。シンガポールでは自分自身が国家、社会、会社にできることは何かと自問しつつ、常に自分の価値を高めようとする姿勢の人が多くと思います。Singaporeの「S」は、Sense of Survivalの「S」でしょうか。「APTSIS」と「SINGAPORE」はたくさん共通点があります。また、発音をとにかく言う人もいますが、シンガポール人の英語のコミュニケーションは完璧だと思います。この国に来て、英語と中国語の大切さを改めて感じました。

Q シンガポールで始められたことはございますか？

国家賃金評議会の日本代表となった機会に、基礎知識習得のため通信教育で日本の社会保険労務士の資格を取得し、現在も関連事項の受講を継続しています。

また、友人とエレキギターや中国語のカラオケを始めました。休日には読書をしたり、水泳やゴルフに行ったりリフレッシュします。

Q 外食はどのようなところをご利用になりますか？

昼食は、カールトンホテルにある「ワーロック」や日本にも支店のある「クリスタルジェイド」で飲茶をしたり、「天勺(てんじゃく)」という和食店に行きます。夕食は、広東料理で有名な「レイガーデン」、シーフードで人気の高い「ジャンボシーフード」、ピザやパスタの美味しい「ダバウロ」などに行きます。バクテーは得意ではありません(笑)。